

2026年6月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米6月CPI(総合)は、前年同月比+3.5%(5月:同+4.2%)、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、同2.6%(5月:同+2.9%)と伸びが鈍化し、いずれも市場予想を下回った。前月比では、総合は▲0.4%(5月:同+0.5%)と大きく低下、コアは±0%(5月:同+0.2%)と横這いで推移し、総合・コアともに市場予想を下回る結果となった。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、6月中旬の米国とイランの戦闘終結に向けた覚書締結を受けた原油価格の下落を背景として、エネルギー価格は▲0.445%と大幅に低下し、指数の押し下げ要因となった。コアサービスは+0.019%と住居費の伸びの鈍化や教育・通信サービス、輸送サービスなどの低下により落ち着いた伸びとなった。また、コア財は▲0.016%と2ヵ月連続で低下し、食品については+0.028%と概ね伸びは横這いで推移した。

・総じてみると、6月CPIは、市場予想を下回り、インフレ圧力の緩和が示唆される結果となった。一方で、足許では中東情勢を巡る緊張感が再び高まるなかで原油価格は上昇に転じていることから、インフレ再燃には注意を要する。

<米6月CPI(消費者物価指数)結果>

(単位: %)

	5月分	6月分	市場予想(6月分)
CPI(前月比)	0.5	▲ 0.4	▲ 0.1
CPI(前年同月比)	4.2	3.5	3.8
コアCPI(前月比)	0.2	0.0	0.2
コアCPI(前年同月比)	2.9	2.6	2.8

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位: %)

主な項目	5月分	6月分
全項目	0.500	▲ 0.422
コアサービス	0.177	0.019
(うち住居費)	0.112	0.041
コア財	▲ 0.022	▲ 0.016
食品	0.021	0.028
エネルギー	0.290	▲ 0.445

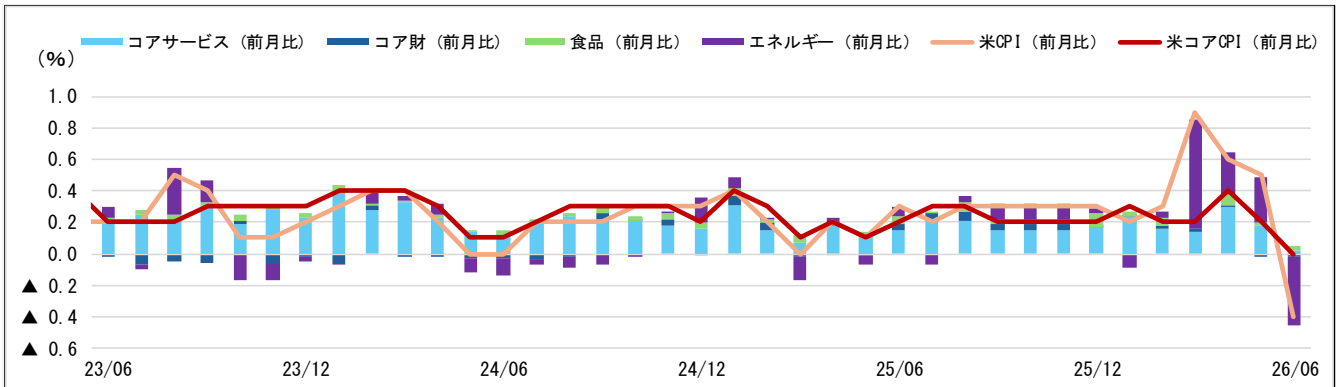
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリーで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所: 米労働統計局、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

<今回のポイント>

・今回のCPIでは、エネルギー価格の下落が指数全体を下押ししたほか、財・サービスなどの広範な価格も落ち着いた状況であることが示唆された。また、市場ではインフレ圧力の低下が好感され、米国の利上げ観測は後退した。

・一方で、CPI公表後に行われたウォーシュ議長の議会証言では、「インフレの高止まりを容認しない」としたほか、今回のCPIの結果についても、あくまで単月のデータであり、「任務完了とはいえない」として引き続き物価安定に向けた強いコミットメントが示された。

・FF金利先物市場における年内の利上げ織り込みは前日の約1.7回から、約1.2回程度まで低下しているが、依然としてFRBの次の行動は利上げであると予想されている。

<市場動向>

	7月13日	7月14日	前日比
ドル/円相場(円)	162.43	162.25	▲ 0.18
ダウ平均株価(ドル)	52,498.64	52,508.27	9.63
S&P500(ポイント)	7,515.34	7,543.59	28.25
NASDAQ(ポイント)	25,873.18	26,107.01	233.83
米2年国債利回り(%)	4.28	4.19	▲ 0.09
米10年国債利回り(%)	4.62	4.59	▲ 0.03

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。